

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

エントリー学校名：

富山大学人間発達科学部附属中学校

活動名：

時代に対応できる教員へ ～今あるICTと地域人材を活用して～

解決すべき課題：

グローバル化が進み変化の激しい未来に向けて、新学習指導要領の完全実施、GIGA スクール構想による一人一台端末の整備・利用など、児童・生徒の資質・能力の育成に向けて教員が取り組まなければならない課題は多い。その課題解決の一つが、校内研修を充実させ時代に対応できる教員にすることである。しかし、働き方改革も進めていかななくてはならず多くの時間を研修で拘束することも避けなければいけない。そこで、今あるハード面とソフト面を最大限に活用し、効率よく、できることから一歩ずつ実践していくより他にないと考えた。

目標・方針：

- ・4月に1年間の研究・研修のビジョンを教職員に示して共有化し、PDCAサイクルを進めていく。
- ・ミドルリーダーの育成、少人数形式、ICT機器の利用、地域人材の活用により校内研修の充実を図る。
- ・研修は、職員会議など教職員が集まる機会を利用して設定し、勤務時間内で終わられるように工夫する。

活動内容：

- ①第1回職員会議で1年間の研究・研修の方針・計画を教職員に示して共有化し、見通しをもった。(P)
- ②休業期間中、勤務時間内に場所・端末を問わずオンラインで研究・研修の打ち合わせを行った。(P)
- ③GIGA スクール構想に向けて地域人材(大学や民間)を招聘して最新の事情や方法を学んだ。(D) 図1
- ④研修において、研究主任だけが講義するのではなく、研究部員が全員講座を担当したり、各教科で学びの成果を今あるICT機器を利用してプレゼンしたり、少人数の話し合いを取り入れた。(D) 図2~5
- ⑤研修に関するアンケートを携帯で自宅からでも答えて送信できるようにペーパーレス化した。(C) 図6
- ⑥これまでの研究成果を発揮するためにICT機器を利用して研究授業をオンラインで公開した。(A) 図7

活動の成果：紙面の都合上、主なものを下記に紹介する。活動内容と活動成果の番号は対応している。

- ②⑥今あるICT機器を利用し、オンラインに挑戦したことで、勤務時間内に場所を選ばず打ち合わせができた。研究授業を公開できたりして、研究・研修を止めずコロナ禍に対応できるようになった。(図7)
- ⑤研修アンケートをペーパーレス化にすることで、校内はもちろん全国の参加者からの意見を集約することが可能になった。また、回答者と集計者双方の作業時間短縮や容易なフィードバックにもつながった。(図8・9)
- ④校内研修において、多くの教員がICT機器操作の慣れ、質疑応答・少人数の話し合いにより他教科の進行具合を知り学び合えた相乗効果や研修担当によるミドルリーダーの自覚と育成が図られた。(図10)

アピールポイント(アイデアや工夫)：

- ・無料アプリを利用したオンラインによる打ち合わせ・公開授業の実施により、研究・研修の学びを止めないこと。
- ・紙からペーパーレスアンケートの変更で時間と場所を選ばない作業と素早いフィードバックが可能になったこと。
- ・研修・講演を必ず対話型、ICT機器を利用、研修担当を分散にし、時代に対応した形式にしたこと。
- ・研修日は教職員が集まる機会に設定したり、成果発表は2つに分けたり時間の効率性を高めたこと。
- ・地域人材を活用し、中学校教員では知り得ない最新の専門的な知識や技術を学べられるようにしたこと。



図1① 民間の地域人材活用 図1② 大学の地域人材活用 図2 ICTを利用した説明①



図3 ICTを利用した説明② 図4 講演での少人数の話し合い 図5 校内研修でのペアの話し合い

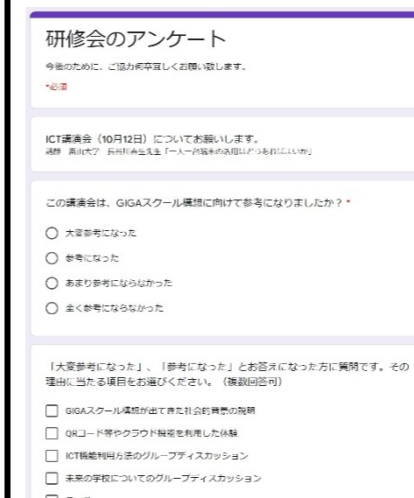


図6 ペーパーレス化のアンケートの一部 (教職員のメールにアドレスとQRコードを配信)

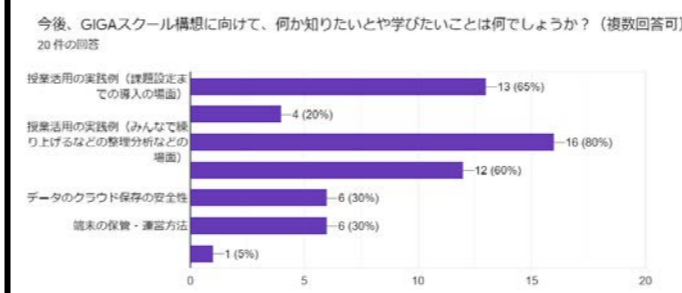


図9 次に希望する研修内容のアンケート結果 図10 学び合いにより相乗効果を示したアンケート結果



図7 オンライン公開授業 (ホスト管理画面)

質問	回答
1. 授業のみ参加	1. 参加になった
2. 授業と協働参加	2. まま参加になった
3. 授業と協働参加	3. 参加になった
4. 授業と協働参加	4. まま参加になった
5. 授業のみ参加	5. 参加になった
6. 授業のみ参加	6. 参加になった

各教科がどのように見方・考え方や深い学びをとらえているのかが少しくわかった。
 見方・考え方の捉え方の違いがわかったから、国語科としてははつきりしていないものなので、他教科の考え方は参考になる。
 他教科における見方考え方をすることで自分自身の見方考え方が広がった
 人に説明する段になり、自分の教科の不明確な点があった。
 「見方・考え方」について、他教科との違いを理解する機会となったから。
 じっくり教科で話し合う時間がとれた。
 他教科の発表を聞くことで、気づいていなかった視点に気づくことができた。また、自分が考えていることの方向性が正しいのか不安だったため、他教科の発表を聞いて、どのように考えていけばよいか、方向性が見えた。
 他教科で、見方、考え方の概念が異なることを知ることができた。
 各教科を横断する学びの大切さが分かった
 各教科を横断する学びの大切さが分かった
 活動の幅がひろがるため
 新しい本校の研究の方向性を知ることができた
 教科の見方考え方をまとめられたこと。
 他教科の見方考え方の決め方を知ることができたから。
 自分の教科で具体的に考える機会になったということ、他教科の発表を聞くことでまた自分の教科と比較することができたから。
 活動の幅がひろがるため
 他教科の深い学びや考え方をすることで、自分教科の特性や全教科で育てるべき力が知ることができた。
 他教科の考えられていることを知ることができた。
 各教科を横断する学びの大切さが分かった

※図8~10のアンケート結果は、自動作成なので担当者は作業時間ゼロでフィードバックをすることができた。